

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成25年1月28日

施設名	高知県立美術館	所管課	文化・国際課
-----	---------	-----	--------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日
施設所在地	高知市高須353番地2		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示 ・美術に関する専門的な調査研究 ・美術に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・美術品等の展示のための県民ギャラリーの提供 ・音楽、演劇等の鑑賞のためのホールの提供 ・上記のほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p><建物> 延べ床面積:6,388㎡ 鉄骨鉄筋コンクリート造地上3階建 <土地> 19,574㎡ 駐車場 144台 <主要施設> 常設展示室、企画展示室、県民ギャラリー、講義室、創作室、ミュージアムショップ、レストラン、美術館ホール(399席)など <開館時間> 午前9時~午後5時(ホール、リハーサル室及び楽屋は午前9時~午後10時) <休館日> 12月27日~1月1日 <主な料金> 常設展 一般350円・大学生250円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 県民ギャラリー21,230円(1日)、企画展示室53,100円(1日) ホール1日38,080円~45,910円</p>		
職員体制	常勤職員: 11人	契約職員: 13人	合計: 24人

※職員数は平成23年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成22年度(決算)	平成23年度(決算)	平成24年度(予算)
収入	県支出金	305,769	289,864	295,613
	事業収入	48,116	46,009	62,590
	その他	39,446	42,973	25,492
	収入計	393,331	378,846	383,695
支出	事業費	111,628	117,395	111,780
	管理運営費	280,989	253,993	268,274
	(うち人件費)	(125,848)	(102,096)	(113,894)
	その他	714	7,458	3,641
	支出計	393,331	378,846	383,695
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平成22年度(実績)		平成23年度(実績)	前年度比較
	年間利用者数(単位:人)			
	常設展	7,778 人	8,505 人	+ 727人
	企画展	25,956 人	40,028 人	+ 14,072人
	美術館ホール	3,717 人	4,081 人	+ 364人
	貸し館	112,447 人	43,378 人	- 69,069人
	貸し館(ホール)	47,943 人	41,401 人	- 6,542人
	県民ギャラリー	50,814 人	61,826 人	+ 11,012人
	合計	248,655 人	199,219 人	- 49,436人
	<利用実績> 平成23年度は前年度と比較して全体で約5万人の減少が見られるが、美術館事業(常設展、企画展、ホール)での利用者数は前年度に比べ15,163人増加した。 一方で、貸し館事業では、平成22年度が「光と影のファンタジー」46,111人、「黄金の都 シカン展」38,343人、ほか県展等を含め112,447人の入館者数であったのに対し、平成23年度は、「ガラス展」14,292人ほか、県展等を含め43,378人であり大幅な減少となった。			

4 県の要求水準に対する評価

要求水準1	評価	状況説明
<p>アートセンターとしての役割の確立を目指す</p> <p>展覧会、ホール事業、教育普及事業(アウトリーチ)を3つの柱に、幅広い活動を展開する。また、指定管理期間を通じて利用者を増やすことで、県民の文化を支える総合的なアートセンターとしての存在感を高める。また、子どもたちが芸術に触れるという観点で事業を計画し実施する。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>	<p>1 企画展示及び常設展示、所蔵品の公開</p> <p>所蔵品の公開 企画展示及び常設展示により、県民に質の高い作品(美術館の所蔵作品を含む)を公開するとともに、それぞれの関連企画の開催により、展示作品の解説を行うなど美術に親しめる機会を提供した。また、お正月企画「福引」や「お年玉トークショー」など関連企画の分野で新たな工夫もみられた。紹介した作品の人気や知名度を含めその価値を浸透させることについては検証が必要であるが、総じて展示に対する評価は高い。</p> <p>○企画展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本近代洋画への道ー山岡コレクションを中心にー」 洋画家70名の名品181点を展示、長谷川徳七氏(日動画廊社長)講演会、県立岡豊高校クラシックギター部クラシックミニコンサート 総観覧者数7,396人 ・「横尾忠則ー絵人百九面相」109点を展示、横尾氏のトークショー、公開制作の開催、映画《新宿泥棒日記》上映 総観覧者数9,291人 ・「写真家 石元泰博の眼ー桂、伊勢」 建築家・磯崎新氏の講演会、矢野憲一氏・内藤廣氏のトークショー 総観覧者数6,013人 ・「京都 細見美術館 琳派・若冲と雅の世界」スペシャル・ギャラリートーク、ワークショップ、お正月福引等 総観覧者数17,328人 <p>○常設展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マルク・シャガール展」(美術館所蔵品による) 計6回開催、版画集を中心に263点の所蔵品を公開 ・「明治・大正・昭和の日本画家 山本昇雲」展 83点 ・「シュルレアリスムとコラージュ」版画を中心に71点 ・「20世紀末・新表現主義作品を中心に」油彩画を中心に35点 ・「日本近代洋画+新収蔵品展」油彩画を中心に36点 ・「ドイツ表現主義の画家たち」版画作品を中心に73点 ・「日本・20世紀末の美術作品」油彩画を中心に14点 <p>2 展覧会以外の事業(ホールを含む)</p> <p>ホール事業では、演劇、舞踊、音楽、映画の各分野の事業を実施し県民に対する文化への関心を深めた。特に、舞台公演は高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル2011として8件の事業を実施し、バラエティーに富んだ先進的で斬新なパフォーマンスは、高知県内や四国地域のみならず全国に美術館をアピールすることとなった。また、映画上映会では、上映機会が少ない質の高い作品を中心に、春、夏、秋、冬4回の定期上映会を行った。</p> <p>なお、主なホール事業開催時には、託児サービスにより利用者への配慮も行っている。</p> <p>○高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル2011</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム水上人形劇入場者数597人 ・プロジェクト大山「キャッチマイビーム」 入場者数250人 ・「ブラックボックス」(イギリス) 入場者数175人 ・中川賢ーピアノコンサート 入場者数108人 ・ヤミーダンス・パフォーマンス 観客数1,483人 ・ポカリン記憶舎 新作公演「ワンダリング」 入場者数208人 ・キュービキュービ公演 「アトメスツパイ」 入場者数396人 ・コープス パフォーマンス「ひつじ」(カナダ) 観客数2,087人 ・出前クラシック教室: 日高中学校等計14日、10ヶ所、427人 <p>○映画上映会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども映画教室 参加人数15人 ・定期上映会(春、夏、秋、冬)総入場者数1,372人 <p>○その他事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第35回高知県新人演奏会 入場者247人 ・誰ガタメノ剣 入場者1,415人 ・演劇祭KOCHI2011 ・四万十川国際音楽祭2011 <p>○その他館外の取組</p> <p>学校を中心に移動美術館「ハローミュージアム」、出前美術講座、講師派遣、職場体験等を実施した。</p> <p>○作品の収集</p> <p>作品の収集は毎年定期的に行い、収集審査会の意見をもらい寄贈を受けている。さらに良質な作品を購入するための予算の計上が必要である。</p> <p>収蔵品の保存について、展示室や収蔵庫の温湿度状態は適正に保たれている。また、生物被害への対策等も十分行っている。</p>

要求水準2		評価	状況説明
県民の芸術文化の活動を支援する	<p>アートの拠点として県民の創造的な芸術文化活動を支援し、育てる役割を担う。この場合、美術館に来ることが容易な県中央部だけでなく、県内全域でアートに触れ楽しむことができる視点に留意する。</p>	A	<p>○収蔵品の貸出し 平成23年度は、シャガール作品を中心に大規模な作品の貸し出しを行うことにより、多くの施設に協力支援を行うとともに、高知県の文化を広く紹介した。</p> <p>○県民の文化活動の支援 学校を中心に移動美術館「ハローミュージアム」、出前美術講座、講師派遣、職場体験等を実施した。また、参加型の子ども映画教室や工作教室、一般参加のオープンアトリエの実施により、芸術文化に親しむ機会を提供した。</p> <p>○カルチャーサポーターの活動 カルチャーサポーターとして延べ715人が活動し、館内の無料スペースに展示した作品の解説や案内、美術館関連の情報収集、ホール事業の受付など、美術館のさまざまな業務を行っている。 サポーターのための研修や連絡会、サポーター同士の意見交換会も行っている。</p>

5 効率的な運営、サービスの向上、施設・設備の管理

運営・サービス・管理		評価	状況説明
効率的な運営、サービスの向上、施設・設備の管理に関する評価	適正な管理運営の確保	A	<p>○適正な管理運営の確保 条例、基本協定等、法令を遵守し個人情報の管理、情報公開の実施、修繕・委託業務の実施、危機管理対策等、適正な指定管理業務を行った。 特に、老朽化した施設対応については、限られた予算内で故障、不具合が生じた箇所を修繕し、多額の修繕が必要な箇所は年次計画に沿って複数年にまたがる修繕にも対応している。</p> <p>○利用者サービスの維持向上 職員研修を実施するとともに、アンケート調査、日々寄せられる意見を職員間で共有し、問題点や改善策を協議確認し改善に努めている。 また、被災地において、資料のレスキュー活動に職員を派遣し美術館としてサポートを行った。</p> <p>○利用実績 前年度に比較し総利用者数は減少しているが、美術館が行う常設展示・企画展示・ホール事業における入館者は増加した。</p> <p>○収支の状況 事業を積極的に展開するため、文化庁等の事業採択により外部資金の獲得に努めた。また、デマンド等経費の削減に努め、適正な支出を行っている。</p>
	利用者サービスの維持向上		
	利用実績		
	収支の状況		

	評価	状況説明
総合	A	<ul style="list-style-type: none"> ・要求水準の内容を十分把握し、特徴ある美術館として目標を高く持った事業展開ができています。 ・子どもたちが芸術に触れる機会を与える事業を積極的に行っており、今後も県民の文化活動の充実をねらいとした様々な取り組みに期待する。 ・作品の収集は予算の関係で寄贈にたよっているが、良い作品が収集できれば、さらに充実した事業を行うことができる。 ・法令等を遵守し、総じて優れた指定管理業務を行っている。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

この評価書は、外部の有識者等で構成する委員会を設置し、その意見をもとに評価を行ったものです。